



日本組織移植学会雑誌

Vol 12/No. 1

通巻 **12** 号

第12回 日本組織移植学会 総会・学術集会

プログラム・抄録集

本邦における組織移植の発展に向けて

会期 ◆ 2013年 8月3日(土)

会場 ◆ ラフレさいたま
埼玉県さいたま市中央区新都心3-2

会長 ◆ 齋藤 大蔵
防衛医科大学校防衛医学研究センター
外傷研究部門

第12回 日本組織移植学会 総会・学術集会

12th Japanese Society of Tissue Transplantation

プログラム・抄録集

本邦における組織移植の発展に向けて

会期◆2013年 **8月3日**土

会場◆**ラフレさいたま**
埼玉県さいたま市中央区新都心3-2

会長◆**齋藤 大蔵**
防衛医科大学校防衛医学研究センター
外傷研究部門

目 次

巻 頭 言	1
会長挨拶	2
開催概要	3
参加者の皆様へ	3
交通のご案内	4
会場のご案内	5
講演規定	6
日本組織移植学会 役員	7
日本組織移植学会 評議員	8
日本組織移植学会 会則	9
日本組織移植学会 施行細則	13
日 程 表	15
プログラム	16
抄 録	
特別講演	22
ランチョンセミナー	24
シンポジウム	26
一般演題	34
協賛企業一覧	54

第12回 日本組織移植学会総会・学術集会

巻 頭 言



日本組織移植学会へ将来への展望

日本組織移植学会
理事長 島崎 修次

みなさまこんにちは、理事長の島崎修次です。

本学会は全国の組織移植に関係するドナー側・レシピエント側の関係者が集まり北村総一郎前理事長先生を初代理事長として2000年に設立されました。本学会の目的は単なる学際的団体にとどまらず、社会的な位置づけをもち、組織移植の進歩・発展に寄与するべく組織提供のありかたや組織移植のルール作り、ガイドライン、あるいは倫理的諸問題について広く社会に向け発信してまいりました。

日本組織移植学会の歴史をみると、2001年には日本組織移植学会のガイドライン作成、2003年には組織バンク認定コーディネーター制度を立ち上げ、コーディネーターの育成制度、同時に認定組織バンク制度を次々と構築し組織バンクのクオリティーアシュアランスを図るための組織バンク運営基準を定めました。特筆すべきはこの制度の導入で8バンクが認定され、心臓弁や骨組織などに関わる認定バンク取得が高度先進医療の必須条件となった事があります。今後とも、この認定バンクは日本組織移植学会の重要な事業の一つとなっています。また、新たなバンク制度としての組織採取センター(TPC)も今後の組織移植の普及に大きく寄与すると思われます。

さらに、保存組織の有効活用を図るために、研究用の組織活用について組織適正利用委員会でルール作りが完成しました。iPS細胞による再生医療がよいよ臨床応用化していく状況下で、本学会も細胞・組織工学、材料工学、遺伝子工学等多方面の分野に広げ方々と連携を図っていく必要があります。

しかしながら12年、持続的に発展してきた本学会ですが、本邦の組織移植を取り巻く環境は経済的側面を含め極めて厳しいものがあり慢性的なドナー不足やコーディネーターの活用の問題も含め各組織バンクとも存亡の危機にあるといっても過言ではありません。

このような中、今回の12回大会は防衛医科大学齊藤大蔵教授が学会長を務められ、テーマを「本邦における組織職医療の発展に向けて」として、組織移植医療の問題を解決する多くの企画が見受けられます。組織移植に関係する第一線の方々も招待され、細胞を含む、再生医療領域との連携も視野に入れた内容となっているようです。本学術集会により本学会がさらなる学問的社会的重要性を増していくことを希望しております。

今年も厳しい夏が予想されますが皆様にはぜひこの大会にご参加頂き日本の組織移植のより一層の発展のためご協力をお願いいたします。

会長挨拶



第12回 日本組織移植学会総会・学術集会

会長 齋藤 大蔵 防衛医科大学校防衛医学研究センター
外傷研究部門

第12回日本組織学会総会・学術集会を主催させて頂くにあたり、ご挨拶申し上げます。

本学術集会の会長をわたくしが務めさせて頂くことは、大変名誉あることと光栄に感じております。防衛医科大学校が担当するのは今回が2回目であり、第5回学術集会をわたくしの恩師である故・岡田芳明先生が東京都の麹町で開催しましたが、今回は埼玉県さいたま市の「ラフレさいたま」で開かせて戴きます。

メインテーマは「本邦における組織移植の発展に向けて」と致しました。月並なテーマではありますが、このテーマの根底には、発展のための土台を築くことが最重要というわたくしの思いがございます。今一度、足元を確かめて今後の発展のための基礎を固めることが何よりも大切だと考えるからです。本学会は2000年に設立され、本邦の組織移植に関する医学・医療の発展に寄与してきましたが、その過程において学会の主要な一分野を形成する皮膚移植の基盤であるスキンバンク（日本スキンバンクネットワーク）が財政的に破綻するかもしれないという危機に遭遇しました。本学会の理事長である島崎修次先生をはじめ、多くの先生方のご努力で短期的には危機を脱することができましたが、長期的な視点でバンクシステムの基盤を強化していく必要性を今も感じております。また、組織移植学会全体においても基盤整備が必要な時期に来ているものと思料します。そのうちの一つに組織レジストリーにおける有害事象の把握と移植した組織の追跡調査の必要性があり、本学会の組織レジストリー委員会では上述の新項目を調査内容に加えるとともに、強固な情報保守と利便性を安価に達成するために東京大学の大学病院医療情報ネットワーク（UMIN）を利用した Web 入力による組織レジストリーへと進化させる予定です。

今回の特別講演には国立成育医療センターの金子剛先生をお迎えして、ご講演して戴きます。金子先生は同種皮膚移植の診療報酬改訂に大きな役割を担って下さった先生で、本邦のスキンバンク破綻の危機を救済して下さった恩人であります。どのような方策が基盤整備に大事なのか、示唆に富むお話が聞けるものと確信しております。臓器移植医療は法で守られて基盤がしっかりしてきましたが、組織移植医療はいまだ脆弱な体制下であり、組織各々のバンクシステムがいつ崩壊しても不思議ではない状況にあると言っても過言ではありません。学会として基盤を整備していく意図的かつ意欲的な活動の促進が必要と考えます。今後、本邦において組織移植がより活発になされていき、その医療によって多くの方々の救命や機能回復に貢献できる医療体制の確立を目指し、本学術集会が少しでもお役に立てれば光栄に存じます。

組織移植医療に関わる方々のご来駕を、心よりお待ち申し上げます。

第12回日本組織移植学会総会・学術集会

12th Japanese Society of Tissue Transplantation

本邦における組織移植の発展に向けて

会 期：平成25年8月3日(土)

会 場：ラフレさいたま 埼玉県さいたま市中央区新都心3-2

会 長：齋藤 大蔵 防衛医科大学校防衛医学研究センター 外傷研究部門

主 催：日本組織移植学会

事務局：第12回日本組織移植学会・学術集会 事務局長 小野 聡

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3丁目2番地

防衛医科大学校防衛医学研究センター 外傷研究部門

TEL:04-2995-1633 FAX:04-2991-1613

参加者の皆様へ

1. 参加登録受付

受付場所 ラフレさいたま 4階

受付開始 8:20

参加費 医 師 10,000円

医師以外 5,000円

2. 受付方法

受付において、氏名と所属をお伝えの上、参加費をお支払いください。

引き換えにネームカード(参加証)をお渡しいたします。

※会期中は必ずネームカード(参加証)をご着用ください。

3. プログラム・抄録集

会員の皆様には事前にご送付しております。当日は忘れずにご持参ください。

追加部数をご希望の場合は受付にて1部3,000円で販売いたします。部数に限りがございますので、あらかじめご了承ください。

4. 各種会議

理 事 会 8月2日 15:00~18:00 5階会議室 桃の間

総会・評議員会 8月3日 11:20~12:00 学会会場(櫻)

懇 親 会 8月3日 17:00~18:00 桃の間

交通のご案内



[アクセス]

電車(JR)をご利用の場合

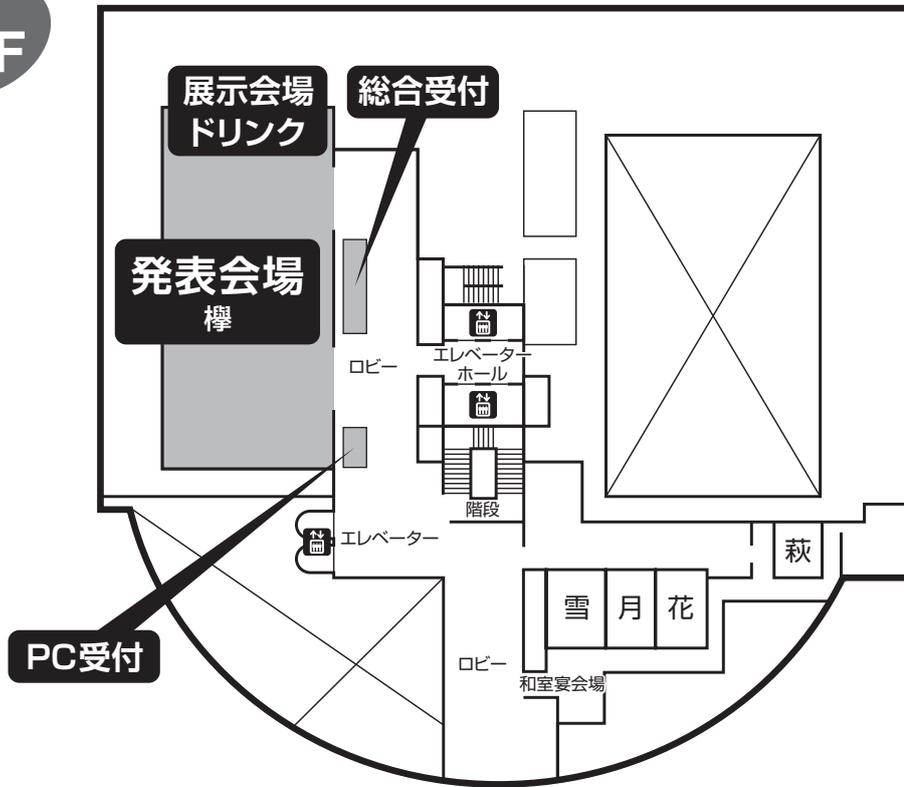
- 京浜東北線
 - 宇都宮線
 - 高崎線
- 「さいたま新都心」駅下車 徒歩7分
- 東北新幹線、●上越新幹線をご利用の方は、「大宮駅」でお乗換え下さい。

車をご利用の場合

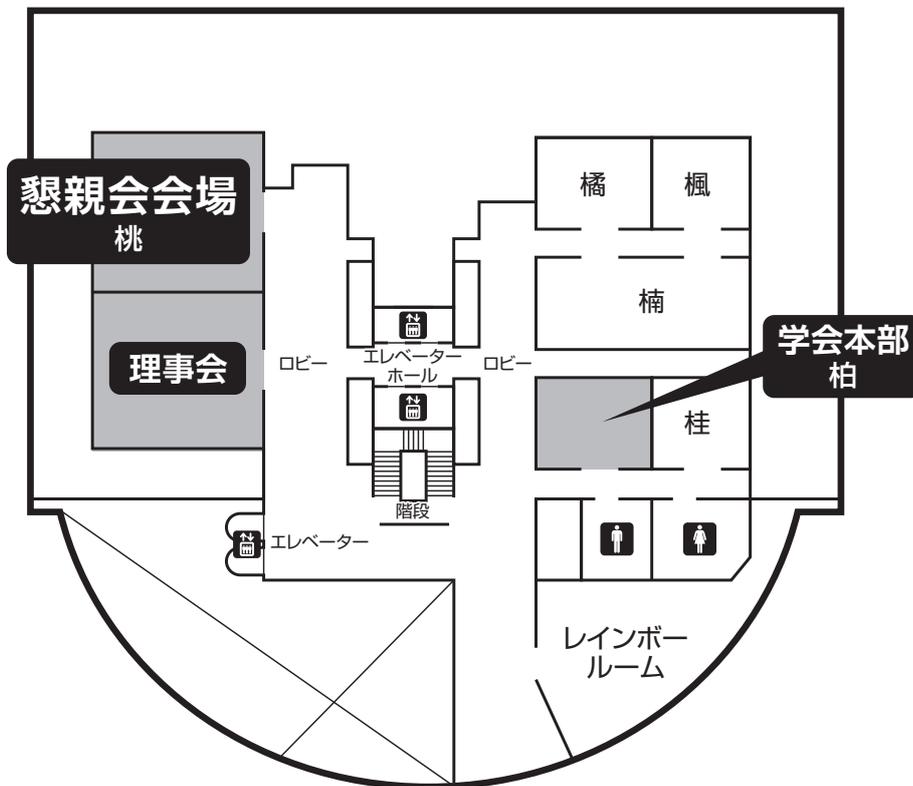
- 高速道「さいたま新都心線」……………新都心出口から400m

会場のご案内

4F



5F



日 程 表

8:55~9:00	会長挨拶	齋藤 大蔵 (防衛医科大学校防衛医学研究センター 外傷研究部門)
9:00~9:40	一般演題1 [コーディネーターセッション1]	座長：中谷 武嗣 (国立循環器病研究センター) 青木 大 (東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンク)
9:40~10:10	一般演題2 [コーディネーターセッション2]	座長：寺岡 慧 (国際医療福祉大学熱海病院) 篠崎 尚史 (公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク)
10:10~10:20	休 憩	
10:20~11:20	特別講演 診療報酬改正における専門学会の役割はなにか？ ーバンクドスキンの経験を生かすにはー	演者：金子 剛 (国立成育医療研究センター 感覚器・形態外科部長) 座長：塩野 茂 (大阪府立中河内救命救急センター)
11:20~12:00	評議員会・総会	司会：島崎 修次 (国土舘大学大学院)
12:00~12:05	休 憩	
12:05~12:55	ランチョンセミナー 人体由来試料の商業利用の課題について ーわたしの体はだれのもの？	共催：(株)ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング (J-TEC) 演者：増井 徹 (独立行政法人 医薬基盤研究所 難病・疾患資源研究部長) 座長：田中 秀治 (国土舘大学大学院)
12:55~13:00	休 憩	
13:00~14:40	シンポジウム [組織バンクの運営基盤について]	座 長：齋藤 大蔵 (防衛医科大学校防衛医学研究センター 外傷研究部門) 特別発言：島崎 修次 (国土舘大学大学院) 北村惣一郎 (地方独立行政法人 堺市立病院機構)
14:40~14:45	休 憩	
14:45~15:25	一般演題3 [骨・靱帯 及び 角膜・羊膜]	座長：木下 茂 (京都府立医科大学) 蜂谷 裕道 (はちや整形外科病院)
15:25~16:05	一般演題4 [皮 膚]	座長：上山 昌史 (社会保険中京病院) 明石 優美 (一般社団法人 日本スキンバンクネットワーク)
16:05~16:55	一般演題5 [心臓弁・血管及びその他]	座長：浅井 康文 (雄心会 函館新都市病院) 本村 昇 (東京大学医学部)
16:55~17:00	閉会の辞	齋藤 大蔵 (防衛医科大学校防衛医学研究センター 外傷研究部門)
17:00~18:00	懇 親 会	司会：小野 聡 (防衛医科大学校防衛医学研究センター 外傷研究部門)

プログラム

会長挨拶 齋藤 大蔵(防衛医科大学校防衛医学研究センター 外傷研究部門) 8:55~9:00

一般演題1 [コーディネーターセッション1] 9:00~9:40

座長：中谷 武嗣(国立循環器病研究センター)
青木 大(東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンク)

- 01** 福岡県における組織移植コーディネーターの活動報告
福岡大学医学部 再生・移植医学 金城 亜哉
- 02** 神戸大学病院における臓器・組織提供の連携と院内移植コーディネーターの重要性
神戸大学病院 院内移植コーディネーター 渡邊 和誉
- 03** 症例データベースの構築について
独立行政法人 国立循環器病研究センター 小川真由子
- 04** 東日本組織移植ネットワークの実績と活動
一般社団法人 日本スキンバンクネットワーク 明石 優美

一般演題2 [コーディネーターセッション2] 9:40~10:10

座長：寺岡 慧(国際医療福祉大学熱海病院)
篠崎 尚史(公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク)

- 05** 兵庫アイバンクにおける待機登録システムの現状と今後の発展について
公益財団法人 兵庫アイバンク 永井 光雄
- 06** 全死亡例臓器提供意思確認システムの運用・分析
東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンク 松本 加奈
- 07** コーディネーター研修の現状と今後の展望
東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンク 青木 大

特別講演

10:20~11:20

座長：塩野 茂 (大阪府立中河内救命救急センター)

診療報酬改正における専門学会の役割はなにか？
—バンクドスキンの経験を生かすには—

金子 剛 (国立成育医療研究センター 感覚器・形態外科部長)

評議員会・総会

11:20~12:00

司会：島崎 修次 (国土舘大学大学院)

ランチョンセミナー

12:05~12:55

座長：田中 秀治 (国土舘大学大学院)

人体由来試料の商業利用の課題について
—わたしの体はだれのもの？

増井 徹 (独立行政法人 医薬基盤研究所 難病・疾患資源研究部長)

共催：(株)ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング (J-TEC)

座 長：齋藤 大蔵 (防衛医科大学校防衛医学研究センター 外傷研究部門)
特別発言：島崎 修次 (国土舘大学大学院)
北村 惣一郎 (地方独立行政法人 堺市立病院機構)

- S1** 組織バンクの運営基盤について
— 日本スキンバンクネットワークの運営基盤と人的資源・財源の重要性 —
日本スキンバンクネットワーク 田中 秀治
- S2** 羊膜バンクの運営基盤の構築について
京都府立医科大学 眼科学教室 木下 茂
- S3** 組織移植医療における診療報酬の現状と課題
大阪大学 重症臓器不全治療学 福寫 教偉
- S4** 東大組織バンクの運営基盤
東京大学医学部附属病院 組織バンク部 本村 昇
- S5** アイバンクの運営基盤
東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンク 篠崎 尚史
- S6** 静岡移植に関するバンクの運営基盤
福島県立医科大学 臓器再生外科 穴澤 貴行
- S7** 国立循環器病研究センター組織保存バンクの現状とその問題点
国立循環器病研究センター 組織保存バンク 中谷 武嗣
- S8** 先進医療「非生体ドナーから採取された凍結保存同種骨・靱帯組織」の
保険収載への試案
北里大学メディカルセンター 整形外科 占部 憲

一般演題3 [骨・靭帯および角膜・羊膜]

14:45~15:25

 座長：木下 茂(京都府立医科大学)
 蜂谷 裕道(はちや整形外科病院)

08 骨バンクネットワーク構築への取り組み

東海骨バンク 井澤 浩之

09 膝複合靭帯損傷に対する同種腱による靭帯再建術の経験

北里大学 医学部 整形外科 東山 礼治

10 難治性角結膜疾患に対する培養口腔粘膜上皮シート移植の橋渡し研究

京都府立医科大学 眼科 中村 隆宏

11 角膜センター・アイバンクにおける検視後の眼球提供症例の現状

東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンク 松本 由夏

一般演題4 [皮膚]

15:25~16:05

 座長：上山 昌史(社会保険中京病院)
 明石 優美(一般社団法人 日本スキンバンクネットワーク)

12 日本スキンバンクネットワークにおける摘出皮膚からの細菌検出とクオリティコントロールの検討

一般社団法人 日本スキンバンクネットワーク 今野 絵美

13 日本スキンバンクネットワークにおける SHIPPING に関するクオリティコントロールの検討

一般社団法人 日本スキンバンクネットワーク 岡野 友貴

14 光超音波イメージングによる熱傷深度診断

株式会社アドバンテスト 伊田泰一郎

15 光超音波イメージングによる移植皮膚生着診断

株式会社アドバンテスト 伊田泰一郎

座長：浅井 康文(雄心会 函館新都市病院)
本村 昇(東京大学医学部)

16 肝細胞移植に必要な細胞分離用酵素成分の考察

東北大学 先進外科 吉田 諭

17 東京大学医学部附属病院組織バンク部の業務における最近の工夫

東京大学医学部附属病院 組織バンク 関 美智子

18 東京大学医学部附属病院組織バンク部ドナー情報対応地域拡大後の
現状と展望

東京大学医学部附属病院 組織バンク部 三瓶 祐次

19 臓器提供と組織提供の連携—脳死ドナーにおける
臓器・組織同時提供症例の報告

東京大学医学部附属病院 組織バンク 服部 理

20 国立循環器病研究センター 組織保存バンクにおける、
移植後経過情報集積への取り組み

独立行政法人 国立循環器病研究センター 組織保存バンク 石垣 理穂

閉会の辞

齋藤 大蔵(防衛医科大学校防衛医学研究センター 外傷研究部門)

16:55~17:00

懇親会

17:00~18:00

司会：小野 聡(防衛医科大学校防衛医学研究センター 外傷研究部門)

S1 組織バンクの運営基盤について —日本スキンバンクネットワークの運営基盤と人的資源・財源の重要性—

○田中 秀治¹⁾²⁾、明石 優美¹⁾、岡野 友貴¹⁾、今野 絵美¹⁾、齋藤 大蔵³⁾、
仲澤 弘明⁴⁾、島崎 修次¹⁾²⁾

1) 日本スキンバンクネットワーク、2) 国士舘大学大学院 救急システム研究科、
3) 防衛医科大学 救急部、4) 日本大学 形成外科

1995年の日本スキンバンクネットワーク発足からまもなく設立20年を迎えようとしている。これまで様々な問題を抱えながらも、熱傷に取り組む医師・コーディネーター諸氏の力をお借りしつつ、また寄付企業等の多くの協力を得て今日に至っている。

設立以来、当ネットワークが扱ったドナーの総数は470件に上り同種皮膚移植の移植者数740名、移植回数1,131回を数えるに至った。この20年で、ドナー数の増加率を上回って移植数がいまだ増加しつづけていることから、より多くのドナーを得ることが未だ喫緊の課題である。

このスキンバンクの20年を振り返るとおおよそ3つのフェーズに分類することができる。バンクの設立まで至る黎明期、そして現在のバンクの基本骨格を形成した基礎形成期、さらに全国の熱傷医の協力をいただきバンクを維持できるようになった発展期である。いずれの時期も多くの問題を抱えており、とくに人材の確保ならびに運営資金の確保はいまだ解決できていない問題である。

20年間のバンク運営の中での最大の危機は、運営が逼迫し、コーディネーターの派遣も制限する中、経済的破綻をきたす時期が2005年にあったが、NHKを通じた広報が効奏し大規模な寄付を頂けた。またこれは日本熱傷学会、日本組織移植学会からの熱心な働きかけにより同種皮膚移植(死体)の保険点数が改定され、それによりスキンバンクは存続の危機から脱することができた。

もう一つは恒常的な人材育成の問題である。経済的基盤が十分でないなかで、質の高い組織移植医療をおこなうためには、あまりにも政府からの経済的サポートが少ない。保険医療のみでは、参加医師への十分なサポートができていないばかりか、コーディネーターも最低限しか確保できず、トレーニングや継続研修を実施しにくい環境が続いている。また臓器移植法の改正や、熱傷の創面治療に対する新しい基剤や人工真皮、培養表皮など移植医療自体の変革に合わせ、スキンバンクの立ち位置も若干変わってきている。これについても見直す時期に来ていると考える。

本講演では、この20年の活動を振り返りつつ、より治療のニーズに対応できるスキンバンク運営と確実なドネーション、また組織移植全体の活性を目標とし、経済的な定着を含めた体制作りを積極的に行うべく展望を述べる。

S8 先進医療「非生体ドナーから採取された凍結保存同種骨・靭帯組織」の保険収載への試案

○占部 憲¹⁾、蜂谷 裕道³⁾⁴⁾、成瀬 康治²⁾⁵⁾、内田 健太郎²⁾⁵⁾、井村 貴之²⁾⁵⁾、
福島 健介²⁾⁵⁾、井澤 浩之²⁾³⁾、笠原 みどり²⁾、高相 晶士²⁾⁵⁾、糸満 盛憲²⁾⁶⁾

1)北里大学メディカルセンター 整形外科、2)北里大学病院 骨バンク、3)蜂谷整形外科病院、
4)東海骨バンク、5)北里大学医学部 整形外科、6)九州労災病院 整形外科

【目的】2000年に同種骨移植術の手術料が保険収載されたが、同種骨の採取・処理・保存にかかる費用は保険医療の対象となっていない。そこで我々は2007年1月に先進医療「非生体ドナーから採取された凍結保存同種骨・靭帯組織」を申請し、2007年7月からこの先進医療を行うことで骨バンクの運営費を補填している。本研究ではこの先進医療の現状と他施設への SHIPPING 数を調査することでこの先進医療の問題点を明らかにし、今後の保険収載に向けての試案を示す。

【対象】この先進医療を申請している2施設を対象とし、2007年7月から2012年6月までを調査期間とした。先進医療を受けた患者の年齢、性別、疾患、移植した同種骨の種類とその数を調査した。また同期間にこの2施設から骨を供給した施設数を調査した。

【結果】先進医療を受けた患者は男性224人、女性265人、60歳代が最も多く、次は70歳代であった。疾患では脊椎疾患と人工関節で全体の88%を占めた。移植した骨は684骨であり、腸骨が281骨と最も多く次に海綿骨を含んだ骨ブロックが208骨であった。1回の移植で2骨以上使用した患者は全体の41%であった。同期間に2施設からのべ281施設に骨が供給された。

【考察】同種骨移植術を必要とする患者は脊椎や関節の変性疾患を有する高齢者が多かった。高齢化に伴い対象患者の増加が予想されるため早期の保険収載が必要であると考えられた。この先進医療では1回の移植術で請求できる材料費は均一であるが、1回の移植術に使用される骨の種類や量は患者によって異なっていた。保険収載の際には1回に使用された骨の量によって材料費を請求できるようにすべきである。また現在2施設以外で移植された骨の材料費はこの先進医療では請求できないが、保険収載時には他施設で使用された骨の費用も保険請求できるようにすべきである。

01 福岡県における組織移植コーディネーターの活動報告

○金城 亜哉¹⁾、岩田 誠司²⁾、伊東 威¹⁾、小玉 正太¹⁾、安波 洋一¹⁾

1) 福岡大学医学部 再生・移植医学、2) 公益財団法人 福岡県メディカルセンター

【背景】 福岡県では、平成22年度より皮膚、平成23年度より角膜^{*}の情報対応を、膝島移植実施施設に所属する組織移植コーディネーター(以下 Co.)が行うべく体制を整備し、過去の本学会においてもその取り組みを発表してきた。また、本邦における臨床膝島移植は平成19年3月より中断していたが、平成24年6月高度医療として再開された。今回は平成24年度の組織移植 Co. の活動につき、ドナー情報の分析を中心に報告する。

※角膜の情報対応については、原則福岡大学病院眼科が摘出する症例に限る。

【結果】 平成24年4月1日～平成25年3月31日の間に受信した総ドナー情報数(電話問い合わせのみ等を除く)は23件であり、情報受信のタイミングは心停止前が17件、心停止後が6件であった。心停止前情報17件のうち、受信時に医学的適応有りと判断し得たのは13件、感染症等の医学的理由等で適応なしと判断されたのが4件であった。医学的に組織提供の可能性があった13件のうち、11件にICを実施し、8件で組織提供の承諾が得られた。承諾が得られた組織は、膝島のみが1件、膝島と皮膚が2件、膝島と角膜が1件、皮膚と角膜が1件、角膜のみが3件であり、このうち、膝島2件、皮膚2件、角膜3件がご提供に至った。

また心停止後情報6件では、全例角膜のみ医学的適応があり、全例で承諾、ご提供された。

さらに、受信した総ドナー情報23件で、ご家族が Co. の説明を希望されたきっかけを分析したところ、心停止前情報ではご家族からの申し出が8件、主治医による選択肢提示が9件とほぼ同数であったのに対し、心停止後情報では6例全てがご家族からの申し出であった。

【考察】 福岡県では、主治医による臓器提供の選択肢提示が、県内複数の施設で継続的に実施されており一定の成果が得られている。また、臓器提供のドナー情報(心停止前)全例で組織提供の可能性も検討し対応する体制を構築しており、現在円滑に運用している。一方、臓器提供の可能性がない心停止後のドナー情報では、全例ご家族からの申し出がきっかけであり、医療機関において組織提供に特化した選択肢提示が実施されていない可能性が示唆された。

【まとめ】 今後、心停止後ドナーからの角膜および皮膚提供拡大のためには、提供施設への働きかけ、啓発活動をより活発にし、選択肢提示からの提供を増やすための方策が必要と考えている。

一般演題5 [心臓弁・血管、その他]

20 国立循環器病研究センター 組織保存バンクにおける、 移植後経過情報集積への取り組み

○石垣 理穂¹⁾、小川 真由子¹⁾、伊庭 裕²⁾、佐藤 俊輔²⁾、田中 裕史²⁾、秦 広樹²⁾、
帆足 孝也³⁾、藤田 知之²⁾、中谷 武嗣⁴⁾

1) 独立行政法人 国立循環器病研究センター 組織保存バンク、
2) 同 心臓血管外科、3) 同 小児心臓外科、4) 同 移植部

【背景】 国立循環器病研究センター 組織保存バンクでは、1999年に第一件目の SHIPPING を行ったが、その後14年を経過し、全88件の実績がある。症例の増加とともに、経過が長期に及ぶものも増加している。このためレシピエントの経過報告の収集が難しくなりつつある。そこには、移植により患者の Q.O.L. が向上し生活圏が広がったことや、受診の必要ないと判断される症例もでてきたなど好ましい要因もあるが、経過報告されるべきものである。そこで現状分析を行うと、受診されていないケースの他に、1. 担当医の認識不足、2. 担当医の変更と引き継ぎ不備、3. 経過報告用式、4. バンクからの経過報告依頼方法等が複合されていることが分かったので、それぞれに検討を行った。

【方法】

1. SHIPPING記録とレシピエント記録、および、これまでの情報の確認。
2. 経過報告用紙の見直し。外来受診施設や担当医に関する記入箇所を設けた。遠隔期および内科的経過報告にも記入し易いよう、項目の見直しを行った。
3. SHIPPING先のみならず、転院先の担当医へ経過報告の必要性の説明を行った。

【結果】 経過報告が途絶えていた21名のレシピエントの内5名について、新たに経過報告を得ることが出来た。また、8名について現在の受診施設が判明、5名について担当医が判明した。2012年9月以降、担当医に依頼した経過報告書の回収がほぼ全例となった。今後もこの取り組みを続けることは重要と思われるので、ここに報告する。

日本組織移植学会雑誌

第12巻 第1号 通巻第12号

Journal of Japanese Society of Tissue Transplantation Vol.12, No.1

2013年7月5日発行

頒布価格 3,000円

発行者 理事長 島崎 修次

発行 日本組織移植学会

〒169-0072 東京都新宿区大久保町2丁目4番12号新宿ラムダックスビル10階
株式会社春恒社 学会事業部内 TEL：03-5291-6231

出版

(株)セカンド
Secand
学会サポート 株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

本誌に掲載された著作物の複写・複製・転機
およびデータベースの取り込みをすると著作
権・出版権の侵害となることがありますので
ご注意ください。